

リスク相応の特別手当を

新型コロナウイルス感染症の拡大で、在宅介護の高齢者が利用する「デイサービス」（通所介護）事業所などの休止が全国で900以上に急増しています（24日、厚生労働省）。このもとでホームヘルパーによる訪問介護が在宅介護の「最後の砦」となっています。関係者は国や自治体に対し、一刻も早いサージカルマスクなど防護具の供給や感染防止対策の徹底リスクに見合った「特別手当」の創設を求めていました。

（内藤真口子）

前で手指消毒をしていますが、改めて手を洗ってエタノールを擦り込みます。

介護保険 現場から

早朝から夕方まで自転車で1日7~8軒を訪問します。感染拡大で休止したデイサービスの代替の訪問も加わり、昼休みも十分とれない忙しさです。

寂しさ受け止め

「こんばんは。洗面所をお借りしますね」。京都市北区の民家。ホームヘルパーの成松美由紀さん（55）は男性利用者のAさん（87）宅に入ると早々にせつこんで手を洗い、うがいをしました。エタノールを使い玄関

す時間が増えました。介護の必要度は重度の要介護4です。

Aさんの脇に体温計を差し入れる成松さん。「36度。大丈

夫」。新型コロナ以降、毎回の検温が欠かせません。消毒に検温…、コロナ対策に時間を取られます。が、家事支援が中心の「生活援助」は介護保険の改善で時間が短縮され1時間程度が上限です。20分で夕食を作り、洗濯物を取り込みます。居間や寝室、台所に掃除機をかけトイレ掃除もフル回転。額に汗がたじみます。

こうした家事支援をしながらAさんの様子を見て声をかけます。「今まで頑張ってきましたよね」と成松さん。「ほんま、よう走ってきたわ」。Aさんの表情がしだいに明るくなりました。

国から補償なし

発熱し感染疑いのある高齢者宅への訪問をはじめ、買い物代行や通院介助など感染リスクが大きい訪問介護ですが国からの補償はありません。「スーパーがコロナ対応でパート職員にボーナスを出すんですから、国が介護職員に特別手当を出すのは当然やと思います」と成松さんは話します。



掃除の合間にAさんに声をかけるホームヘルパーの成松さん=京都市(3月上旬撮影)

4/30
春旗

“最後の砦”訪問介護守れ

一面のつづき

P.C.P 検査拡大を

人口当たりの感染者割合が

高い石川県金沢市。「サービスカルマスクが足りず事業所としては布マスクしか配られません。介護は利用者と密着する業務。自腹で高いサービスカルマスクを貰っているヘルパーもいてやるせない。国の責任

で介護にも医療と同じ感染防護具を供給してほしい」。訪問介護ステーション「つむしんぼ」の大川敦子所長（59）の訴えは切実です。

介護保険

20年 現場
から

基盤崩壊の危機

R検査の対象を広げてほしいと言います。

人手不足が慢性化

市内の介護施設で感染が広がった千葉市。休止する事業所が相次ぐなか、千葉労働者福祉会のデイサービスセンター「からたち」は業務を続けています。同会法人介護部長の門脇めぐみさん（49）はこ

「制度改悪で特養ホームの入所が要介護3以上に制限され自己負担も増したため、施設に入らずデイサービスと訪問介護で在宅生活を維持している中・重度の方が増えています。デイサービスがないと『感染者が出てた』『大川さん』と大川さん。ヘルパーが安心して働き続けられるようP.C.

R検査の対象を広げてほしいと言います。



デイサービスセンター「からたち」では、感染防止のため利用者間の距離をとって体操しています（25日（同事業所撮影））

治体の財政支援が欠かせないと門脇さん。

「最後の砦（とりで）」の訪問介護はどうか。「介護報酬本

体の引き下げが続き直行直帰の『登録』ヘルパーの時給は移動費も含め1,500円程度しか出せません。入院でキャンセルが出ることもあり収入は不安定。有資格者が他職種に流れ人手不足が慢性化しています」と門脇さん。介護職員の平均月給は全産業平均と比べ7万円以上少ないままです。

門脇さんは言います。「介護職員は緊急事態となつても危険な状況で働き続けなければならぬエッセンシャルワーカー（必須の労働者）です。

それにふさわしい介護報酬の引き上げ、大幅な待遇改善が欠かせません」

新型コロナ感染症の拡大は国が、介護政策の抜本的な見直しを突き付けています。